東海学園大学教育研究紀要　第９号：104-116，2024

〈教育実践研究〉

保育科学生のマザリーズ手遊びの理解について
―専門演習での指導を通して―

横井一之 *・夏目佳子 **

1．研究の目的とマザリーズについて

（1）本研究の目的は３つある。

①子どもとの触れ合いの基礎としてマザリーズを身に付ける。

手遊びや絵本の読み聞かせは、保育の基本技術と言われるが、さらに保育の基礎は、子どもとの心のつながりである。子どもの気をちょっと引いたり、リラックスするようにするにはマザリーズはとても大切だと思う。それを、わずか３種類だが、確実にできるようにしたい。

②学生と同じものを研究対象として、同じ研究者的視点をもつ。

本ゼミは、保育の自然系、領域「環境」の内容を扱うことが多いが、そういう発展的な内容でなく、子どもと関わる基礎技術としてマザリーズを学生と一緒に扱うことにより、研究者、保育者としての教員とゼミ生との交流を図り、幾ばくかの教員に対する敬意の念を育て、今後のゼミ指導、卒論指導の糧としたい。

③学生と一緒に研究を通して、卒業論文の書き方を過緊張せずに伝授する。

学生と一緒に、一昨年は「専門演習における絵本の読み方の練習についての一考察：0，１歳児への間を大切にした読み方に焦点をあてて」、昨年は「専門演習における地域施設の活用について」をゼミの中で活動したことを取り上げ、小論文にまとめた。当の学生に卒論発表会の後に尋ねると、「章の構成、表や図の書き方、文の書き方の理解の上で役に立った。」という嬉しい回答をいただいた。教員と学生が一緒に行った活動を、言わば一緒に見たり、聞いたり、触ったりしたことを基に、それらを図、表、文として組み合わせて１つの論文にまとめる様子を間近でみることは、学生にとって卒論を書く場合の参考となるということである。

（2）マザリーズとは

マザリーズとは児玉珠美（2015）によると、「1966 年、アメリカの文化人類学者、チャールズ･ファーガソンが初めて用いた用語であるといわれている。現在の研究領域においては、成人の話し方である。Adult-Directed speech（ADS）に対し、Infant-Directed speech（IDS）と呼ばれることが多い。」という。分かりやすく表現すると、表 1、表 2 のようである。

* 東海学園大学教育学部教授、** 東海学園大学教育学部准教授

表１　マザリーズの特徴（その１）　児玉　珠美（2015）

①　普段よりやや高めのピッチとなる。 ②　普段より速度がゆっくりとなる。 ③　普段より抑揚が大きく付く。

表２　マザリーズの特徴（その２）　町田市地域子育て相談センター（2023）

①　ふだんより少し高い声 ②　ゆっくり、抑揚をつける ③　短い言葉で繰り返す ④　表情豊かに

（3）本研究で用いたマザリーズ手遊び

専門演習ⅠとⅢの時間にゼミ学生に指導したマザリーズ手遊びは表３の３曲である。

表３　マザリーズ手遊び（横井ゼミ）

①ちょちちょちあわわ　　かこさとし（1975）P10 より （歌詞）ちょち、ちょち、あわわ、かいぐり、かいぐり、にゃんこの目。 （動作）４拍の手拍子、右手の平で口を３拍「あわわ」と叩く。両手を交互に２拍回す。 「にゃんこの」で構えて、「目」で自分の目を指差す。 ②３匹のクラゲ、3 jelly-fish　　横井一之他（2006）より （歌詞）Three jelly-fish. Three jelly-fish. Three felly-fish sitting on the rock. One fell down. Tlu Tlu Tlu・・・・・(８回) Two jelly-fish. Two jelly-fish. Two jelly-fish sitting on the rock. One fell down. Tlu Tlu Tlu・・・・・(８回) One jelly-fish. One jelly-fish. One jelly fish-sitting on the rock. One fell down. Tlu Tlu Tlu・・・・・(８回) No jelly-fish. No jelly-fish. No jelly-fish sitting on the rock. （動作）右手の指３本立てる。それを３回繰り返して、左手のげんこつの上に置く。 左手のげんこつから右手人差し指が転がり落ちる。 ③さよならあんころもち　　町田市地域子育て相談センター（2023）より （歌詞）さよならあんころもち、またきなこ。ホッ。 さよならあんころもち、またきなこ。ホッ、ホッ。 さよならあんころもち、またこんど。ホーオ。 いただきます。スーウ。ごちそうさまでした。 （動作）ちいさなあんころもちをふくらませるようにする。 中くらいのあんころもちをふくらませるようにする。 大きいあんころもちをふくらませるようにする。 最後は、中身を吸うように食べて、挨拶をする。

表３の手遊びは、ピッチがやや高くなるときがあり、速度もゆっくりになり、抑揚がつき、表情は豊かに演じる。ただし、マザリーズというと、年齢が乳児のみの感じがするので、３歳までぐらいの子どもでも取り組めそうであり、先生役でやってみようと言えば、4, 5歳児でも取り組めると考えるので、「マザリーズ手遊び」と呼ぶことにした。さほど手遊びを指導した訳でもないが、もともと手遊びはマザリーズの要素をもっていると考える。

2. マザリーズ手遊びを実演した学生の感想について

(1) ちょちちょちあわわ

①教師の演示を見た感想（2023.04.12.）

a．Is さん 「よちよち」が子どもに分かりやすいように「ちょちちょち」になっていた。動きが大きく分かりやすく、テンポも分かりやすく簡単だった。

b．It さん　声と手遊びが一致しており、分かりやすいと思った。分かりやすく言葉にすることで子どもに伝わりやすい。にゃんこの目のところで、目を開いて指を指すことで目がどこか分かる。

c．U さん　分かりやすい音や声を使って、子どもに分かりやすいようにしているのかな？と思いました。子どもも一緒に演じて嬉しいような動きだと思いました。手と手拍子が一緒になっている。とても楽しそうに見える。お母さんの優しい声で言われると嬉しくなるような手遊び歌である。

d．O さん　声と手拍子が合っていて、分かりやすい手遊びだと感じた。言葉の発音がかわいい。

e．Md さん　口で言葉を大きく表現しており、自分が楽しみながら演じていたのが印象的でした。「ちょ」の発音もしっかりとはっきりと言っていたので、相手に伝わりやすいと感じた。

f．Mz さん　声と手拍子が合わさって良いリズムで行うことができていると思った。リズムに合わせて、手を動かすことでより楽しく行うことができる。

②みんなと一緒に演じた後の感想（2023.04.12.）

a．Is さん　一つ一つの動きが楽しくて分かりやすい。言葉と動きを一緒に行うことで楽しいと感じた。にゃんこの目の時にみんながしっかり動けていて、見ていても楽しかった。

b．It さん　大きな声でハキハキ言うことが大切である。抑揚をつけることが大切である。実際にすることで、ちょちちょちという言葉は子どもに伝わりやすいと思った。実際に演じてみて、動きと言葉が合っていて楽しいと思った。

c．U さん　楽しくできた。1つ1つの動きが大きい。にゃんこの目で子どもが「メーッ」って注目してくれると思う。手の動きと音が合っているので教えやすい。動きも大ざっぱなので覚えやすい。大きな動きをする所が多いのでやりやすい。

d．O さん　実際にやると、リズムと声が合っていて、おもしろい手遊びだと感じた。振り付けも、実際やってみるとおもしろい振り付けだと感じた。

e．Md さん　みんなで一緒に全力でやってみると楽しい雰囲気になって、子どもも真似しやすいと感じた。手の動きも大きく表現することで、相手に動きの楽しさを伝えることができるので、声の大きさ、発音の工夫も加えて、全て大きく表現することが大切であると考えた。何より、自分が表現することが必要であると思った。

f．Mz さん　手拍子だけではなく、言葉によって動きを変えることで楽しむことができるようになると思った。子どもも簡単に真似できる動きにすることで、一緒に楽しむことができると思った。

③保育者の立場で模擬指導した感想（2023.04.19.）

a．A さん 「にゃんこの目」で、みんなそろって「目！」と言うところが、子どもが食いつくところだと言っていたので、リズムのある手遊びは人気だと思った。

b．Is さん　みんなの前で実演してみて、緊張とセリフがあいまいでだらだらだった。

c．It さん　にゃんこの目をする時に目を開いて指を差すことでわかりやすいと思った。みんなの前で演じるのに緊張してしまったけれど、楽しかった。ゆっくり演じることが大切であると思った。

d．U さん　にゃんこの目が目を指してとても子どもが喜びそうだと思った。かいぐりで手を回すところがとても可愛くて、子どもがやっていたらとても可愛いと思った。ちょちちょちあわわで口に手をあてるので、とても可愛いと思った。動きがとても多いので、子どもが楽しくできると思う。

e．O さん　みんなと合わせてやると楽しかった。にゃんこの目の前の“ため”をつくることで、みんなと一緒に合わせて「目!!」とやることができて楽しかった。

f．Md さん　子どもが保育者に注目するために、声をかけてから手遊びを始めることが大切であると感じた。「かいぐりかいぐり」で、両手を回して、そのまま「にゃんこの目」に移るため、決まりやすく、揃えやすい遊びであると学ぶことができた。

図１　学生の模擬指導（天白公園 04.19.）

保育者が大きな動き見せて楽しんで手本の手遊びをすることが大切であると考えた。また、みんなで揃って目を指す瞬間はとても気持ちが良いと思った。

g．Mz さん　１つ１つの動作を大きくやると、子どもに伝わりやすいと感じた。難しい動作が多くないので、子どもも簡単に覚えることができ、一緒に楽しむことができると感じた。

目を指すときに、誤って目に手が入らないように、しっかりと目を配り行うことが必要だと考えた。

(2) 3 jelly-fish

①教師の演示を見た感想（2023.04.19.）

a．A さん　とてもスムーズに英語で手遊びをしている。すごい。

b．Is さん　子どもが真似できる簡単な動きと巻き舌がおもしろいと思う。

c．It さん　トゥルルという時に高い音を出すことで、楽しむことができると思った。

英語で歌うと分かりにくいと思うので、ゆっくりと歌うことが大切であると感じた。

図２　教師の演示（演習室　04.19.）

落ちる時に指でも落ちるようにすると分かりやすいと思った。

d．U さん　トゥルルルルの時に音も動きも子どもが喜びそうだと思った。数字を数えていくのでとても分かりやすく、小さな子どもでも出来ると思った。

英語なので、クラゲの英語の名称も覚えられると思った。トゥルルルルで子どもがびっくりするみたいです。ノー　ジェリフィッシュの時の手が可愛いと思った。

e．O さん　英語の歌だけど歌が可愛らしくて伝わりやすい歌だった。「トゥルルル」と落ちるところが、子どもも楽しくできるかなとふと思った。

f．Md さん　英語の発音をはっきりと声に出していたので、どのような指使いをすれば良いかが分かりやすいと感じた。

クラゲが落ちていく様子を、舌でトゥルルルと何回も繰り返しており、みんなができているか問いかけたり、様子を見たりして、みんなで手遊びをしているという体験できるように促しているようにも思えた。

g．Mz さん　１つ１つの動作が分かりやすかった。英語でむずかしい部分もあるが、実際に手遊びをみることで少し理解することができた。

リズムも大切だが、手遊びをする時にどれだけ楽しむことができるかが大切だと思った。

②みんなと一緒に演じた後の感想（2023.04.19.）

a．A さん　岩の上からクラゲが落ちる時の「トゥルルル」の発音が少し難しかった。

b．Is さん　3 匹から 0 匹になっていくのが、順番になっていて楽しかった。英単語も多くなく、子どもと一緒にできそう。

c．It さん　みんなでそろって「トゥルル」と歌うのが楽しかった。

実際にやってみると、英語なので歌うのが少し難しく感じたが、動きが分かりやすくて楽しかった。「トゥルル」と分かりやすい音で出すことが大切だと思った。

d．U さん　とても楽しくできた。トゥルルルルが出来ないとだめだと思った。手先だけで動いているように見せるのがコツ。手をフリフリして音にのってとても楽しかった。

トゥルルルで指をくるくる回すのが子どもが喜びそうで楽しくできると思った。実際にやってみると意外と難しくて子どもはしっかり出来るかな？と思った。

音で遊ぶものなので、音をしっかり出すことが大事だと思った。

e．O さん　実際にみんなでやると「トゥルルル・」のところがみんな合わせて歌えて響きが楽しかった。手遊びも簡単で覚えやすくて楽しかった。

f．Md さん　見様見真似で動いている様子で、英語を口ずさむ人もいて、楽しく手遊びををすることができて良かった。

舌でトゥルルルのところをみんなで挑戦していて、学生どうしでも笑いながらできたので、子どもたちも楽しめるのではないかと思った。

g．Mz さん　始めは簡単に思っていたが、英語を言いながら行うのは難しいと感じた。

クラゲが落ちる部分の動作の時の声は特に難しいと感じた。しかし、みんなで一緒に行うことで楽しく行うことができた。動作は簡単だと感じたので、子どもでも覚えることができると思った。

③保育者の立場で模擬指導した感想（2023.04.26.）

a．A さん　前回のときより、詳しく教えて頂き、岩を出すタイミング、落ちる時の手、手遊びの前のお話など、さらにレベルアップした手遊びをすることができた。日本語で話すとどうなるのかと思った。

ちがう動物でやっても良いのかと思った。

b．Is さん　英語で初めての手遊びをしてよい経験になりました。絵本の導入で使ってみたいと思いました。また、クラスに海外のお友達がいたらやってみたいと思います。

分かりやすい動きと単語なので、年少でも出来ると思います。手遊びは大きく動けば良いわけで無いことを知った。

c．It さん　導入も何もしないで始めてしまった。動く時にあまり大きく動かない方が良いという事が分かった。

ずっと左手で岩を作ったままにしていたので、子どもは混乱してしまうだろうと思った。

最初にクラゲの手遊びをすると伝える事で、子どもはワクワクして手遊びを楽しめると思った。子どもから見て右手を使うことを忘れないようにする。実際に自分が前に立ってやってみたら楽しかった。

d．U さん　色々手遊びのやり方で違うところがあり、少し難しく思った。しかし、手を横に振りながら音に合わせて行うので、子ども達と一緒にとても楽しめるのでは？と思った。

最初に子ども達に、今から始めるよとあいさつをしてから始めるのに、あまりよい言葉が見つからずにいたので、そこをしっかりとこれから出来るようになりたいと思った。

基本的なことだが、自分から見て左側は、子どもには右側になるという事もしっかり覚えなければいけないと思った。

e．O さん　手だけの動きで演じるということを、歌詞の流れに沿った手の動きをすることが大切だと

学んだ。

手遊びをするときに、いきなり始めるのではなく、「クラゲ知っているかな？」など問いかけをしてから始めると良いと思った。

「トゥルルル－」と岩から落ちるときの発音が演じていて楽しかった。

ｆ．Md さん　まずは、保育者になりきって子どもの前に立っているので、左手を出すか、右手を出すか、しっかりと確認して始めることが大切であると思った。

ロック（岩）がでてくる前から手を出して、自分は意味を知った上で手遊びをすることが必要となってくると考えている。

また、くらげが落ちるところで、ロック（岩）の上の手に１匹を表すのではなく、落ちるときに指を変えることが大切になってくると思う。子どもたちに分かりやすいように手遊びを楽しむことが良いと思った。

ｇ．Mz さん　いきなり歌を始めるのではなく、クラゲに関連した言葉がけを行い手遊びをすると良いと思った。

１つ１つの動きを大きくするのではなく、小さく動かしながらも、子どもたちに分かりやすいように動かすことが大切だと感じた。歌の内容を理解しながら手遊びを行うことで、子どもたちが不思議と感じないように１つ１つ丁寧に行うことが大切だと感じた。

英語でなかなかむずかしいと思う事はあるが、子どもが分かりやすいように、１つ１つ行うことが大切だと考えた。

(3) さよならあんころもち

①教師の演示を見た感想（2023.04.26.）

ａ．A さん 「またきなこ　ぽっ」というところがマザリーズの特徴を捉えていて工夫されているのだと思った。

どんどんあんころもちが大きくなっていく様子は子どもからしても、楽しく手遊びができるポイントだと思った。

ｂ．Is さん 「またきなこ」の後のホッが楽しそう。この手遊びが東京都の町田市で演じられていると聞いてすごいと思った。

あんころもちがどんどん大きくなっていって、さいごに食べるのが面白いと思った。

ｃ．It さん 「ホッ」を言うときにマザリーズが使われていて楽しいとおもった。2 回目の「ホッ」と言う時もまた言い方が違ったので見ていて楽しかった。体でどんどん大きくなるのは表現していて分かりやすかった。

3 回目は「ホー」とのびていて、それもまた声のトーンが変わっていて楽しかった。動きが分かりやすいため、子どもも楽しく手遊びを楽しむことが出来ると感じた。

ｄ．U さん　あんころもちを作っている動作がとても可愛くて、何かを作る時に役立ちそう。マザリーズで大切な最後のホッが子どもが喜びそうだと思った。どんどん大きくなるあんころもちが子どもが喜びそうだと思う。

「最初と最後でさよならあんころもちまたこんど」でさよならをしていて、可愛いと思った。最後にあんころもちを食べてチュルチュルと言っているのがとても可愛く、子どもがやったらとても可愛いだろうと思った。

ｅ．O さん　また来てねという意味も込めて「またきなこ」という歌詞を使っていて、言い回しが良いと思った。

1 回目は「ホッ」、2 回目は「ホッホッ」、3 回目は「ホーッ」というマザリーズが面白くて子ども

も楽しめそうだと感じた。実際に保育の現場で、帰りの会などでやれるような手遊びだと思った。

チュルチュルと最後に食べるところのマザリーズが不思議だった。

f．Md さん　この手遊びをすることで、テンポもよくて手の動きも分かりやすいので、「いただきます」をするときに使うことができると思った。「ほっほっ」とあんころもちが増えていくのを表現するところは、子どもたちは楽しみながらできると思った。

最後に「またこんど」となるところで、手を広げて「ちゅるちゅる」と食べるところもマザリーズであることを知った。まるであんころもちを手の動きでしていたため、みんなで作っているような気になれて楽しめると感じた。

g．Mz さん　手の動きが簡単で分かりやすかった。もちが大きくなる時に「ホッ」ということで、少し面白さも感じた。

食べる時に「ちゅるちゅる」と言うことにより、マザリーズを感じることができると思った。これは、小さく動くと分かりにくいと思ったので、大きく動作をすることが大切だと思った。

②みんなと一緒に演じた後の感想（2023.04.26.）

a．A さん　少しずつもちを大きくしていくところで、1人1人大きさが違って、そこに注目して声掛けをしても良いのかなと思った。声の高さや抑揚のつけ方が大切だと思った。

b．Is さん　同じ言葉を繰り返し言うので、分かりやすく、リズムも取りやすいと感じた。

あんころもちが作っていくうちにホッと大きくなっていくのが楽しい。声の抑揚がとても大切だと思った。

c．It さん　みんなで実際にやってみると「ホッ」と言う時も一緒に言って楽しかった。「ホー」と言う時に声を高くしたりして言うのがともて楽しかった。高い声を出したりして声のトーンを変える事であきないで楽しめると思った。

「チュルチュル」と言って食べる動きをすることで、分かりやすく楽しかった。段々大きさが変わっていくのを動きで表現するのもとても楽しかった。子どももだんだん大きさが変わっていくのを体で表現するのを楽しめると思った。

d．U さん　みんなでさよならあんころもちを演じてみて、動作がとても可愛らしくて、子どもと一緒に演じると、大きくなっていくあんころもちを、ころころごろごろして、とても楽しくて、可愛いだろうと思った。

最後のチュルチュルが面白くて、楽しくできると思った。ホッのところで、どんどん回数が増えていくところを子どもは楽しみそうだ。

あんころもちをにぎるところがとても楽しかった。あんころもちをにぎる音に合わせて、お母さんとやったら、おにぎりをにぎったりする手伝いをやってくれそうだと思った。

e．O さん　実際に演じると、あんころもちが“どんどんおおきくなっていくところ”が楽しかった。

「ホッ！」という声を高い声で言うことで、よりあんころもちが大きくなる振り付けが楽しくなると感じた。

最大まで大きくなったあんころもちを「チュルチュルチュルー」と不思議なマザリーズを唱えながら食べる素振をするところが面白くて、子ども達も楽しくできるのではないかと思った。

図3　一緒に演じる（演習室　2023.05.10.）

f．Md さん　1回目は1つのあんころもちを持つように表現し、「ほっほっ」と2つになると、あんころもちを2つ持っているくらいに大きく持って表現してい

ることに気付いた。

「またこんど」となるときには、「ほ～」と言いながらあんころもちを伸ばしていくときに、子どもたちが大きい動きを真似してくれるように自分も大きく広げることが大切であると思った。

「ちゅるちゅる」と食べるところでも、その動きをする前に「みんなで食べよう」と声をかけたりすると、子どもたちと揃って食べる動きができて、楽しみながらできると思った。繰り返すときには、おもちの量が増えているように表現することで、分かりやすくなっていると思った。

g．Mz さん　１つ１つの動作が簡単でとても分かりやすかった。大きくなる時に「ホッ」と言い、きちんと大きくする様子を表すことが大切だと思った。

歌もとても分かりやすくて、リズムに合わせて行うことができたので、子どもも一緒に楽しめると感じた。

４つ目のおもちが大きくなる時は、最大限に大きく表し、「いただきます」と言い、おもちを食べる動作をするなど歌に関連している手遊びが多くあると思った。

すぐにできるようになるのは難しいが、何回もやることで分かりやすくなるし、子どもにも教えることができると考えた。

③保育者の立場で模擬指導した感想（2023.05.03.）

a．Is さん　最初の声かけと最後の声かけは大切だと思った。ホッホッが印象に残りやすく楽しい手遊びだと感じた。

手でもちを丸く表現したり、ホッホッという声の表現でもちが大きくなっていくのが分かるように演じた。最初は小さく転がしているが、途中から大きく表現した。

b．It さん　ホッを言う時に声を高くする事でやっていて楽しかった。みんなであんころもちを大きくして一緒にするのが楽しかった。最後の「ちゃー」と言って食べるふりをするのが楽しかった。

「ホッ」と言って形の大きさを変えることで膨らんだ感じを演じた。「ホー」と言い手を大きく広げる事で餅が膨らんだようにした。「ホッ」と言う事で餅が膨らんだ感じになると思った。

c．O さん　音と振り付けがかわいらしくてとても楽しかった。「ほっほっ」というところが、段々とあんころもちが大きくなることを表していておもしろかった。最後に「ちゅー」っとあんころもちを食べるところがみんなでやると楽しい。

振り付けで手を少しずつ広げることと、歌うときに「ほっほっ」や「ほー」を段々大きな声で歌い、膨らんでいるところを表した。

d．Md さん　子どもが前にいて一緒に手遊びをする想定でやってみると、子どもたちにどのような声をかければ、一緒にやってくれるかを考えて声をかけることができるため、保育実習に繋がる経験ができて良かった。あんころもちが膨らむところで、子どもたちに膨らむ様子が伝わるようにすることで、共感しながら手遊びができると思った。

「ほっ」というところで、自分の手を見て、手と手の間が膨らんだように見せていたところで膨らむ様子を感じた。また、２つになるところでは、１回目の手と手の間の始まりと２回目の手と手の間の始まる広さを変えて膨らんだことを表現していた。

e．Mz さん　だんだん大きく膨らむ様子をうまく演じることができたので良かった。「ホッ」の時に大きくする様子を上手くできると、子どもに伝わりやすくなると思いました。みんなで「いただきます」をする言葉がけや手遊びをする前の言葉がけなど上手にできたので良いと思いました。

手の動きだけで膨らむ様子を演じるために、「ホッ」のところで丸を少し大きめにして、手を大きく広げるようにして分かりやすく演じました。手の動きを変化させることでもちの膨らみを分かりやすくすることを心がけました。

(4) まとめ

音楽性については、第3章で論じるので、ここではこの章の要点をまとめる。

今回取り上げた3種類の手遊びの中で、「ちょちちょちあわわ」が対象年齢が低く、基礎的なマザリーズ、手遊びだと考えられるので、最初に取り上げてよかったと考えている。①教師の演示を見た感想でも、すべての学生が分かりやすいとよく理解している。②みんなと一緒に演じた後の感想では、表1にあるマザリーズの特徴が出ており、つまり、やや高めのピッチ、速度がゆっくり、大きな抑揚の手遊びなので、一緒に演じる者どうしの意気が高まり、一緒に演じている楽しさを感じ、そして楽しく言葉を聞いたり、発するタイミングを身に付けることができることに、ほとんどの学生が気付いていることが分かる。そして、③保育者の立場で模擬指導した感想では、マザリーズが子どもの気を引く理由を客観的に考えたり、予鈴のように「ちょちちょち」や「かいぐりかいぐり」を唱えることの有用性に気付いたり、対象が乳児の場合もあり、演技中に子どもを傷つけないようにしたりすることに学生自身から気づいて、そして実行している。

「3 jelly-fish」は、横井一之が1995年、1996年に勤務先の学生をオーストラリアのゴールドゴースト市の幼稚園実習へ引率し、そこの保育者が演じていたものを帰国し、再現した手遊びである。1～3歳児ぐらいの子どもが喜ぶ手遊びである。当時はマザリーズの考え方を横井一之はもっておらず、クラゲが岩から落ちるのを表す声「Tlu Tlu Tlu Tlu」というオノマトペ（または擬声語、擬音語)、つまりこれがマザリーズの特徴をもつが、とても大切である。

横井が、マザリーズの説明として取り上げたこともあるが、①教師の演示を見た感想では、It、U、Mdの3名は、その音の重要性について述べている。また、手遊びなのでその手の動きの分かり易さを述べている者もいる。うっかりしていたが、学習者が大学生で模擬こども園だったから問題がなかったが、いきなり英語で手遊びを行った。おそらく、本当の乳幼児だったら、もっと戸惑ったことだろう。実際に、「③保育者の立場で模擬指導した感想」を書くときになり、困ったことが生じた。歌詞カードも渡してあったので、英語の手遊びの意味はほぼ全員が理解できていたようだ。しかし、簡単な英語の歌でも、自分で歌おうとすると若干の練習が必要となる。また、その学生の英語の実力も関係してくる。学生の戸惑いをまとめると、英語の歌詞の発音の問題、右手を示すのに左手を出す必要があること、右手と左手の関わりのタイミングの取り方などである。

「さよならあんころもち」のマザリーズ手遊びは、マザリーズを調べたときに、この手遊びがユーチューブの最初に表示されたので取り上げた。しかしながら、当初はどうしてこの手遊びがマザリーズなのか、あまり理解できていなかった。何十回とユーチューブの画面を見ながら、このマザリーズ手遊びを練習した。そして、2023年春にはほぼ習熟し、4月26日に学生の前で演技した。マザリーズとしての神髄は、あんころもちをこねる手遊びの演技、そして、すべての学生が指摘したあんころもちが煉り上がるたびにだす「ホッ」、「ホッホッ」、「ホー」というマザリーズである。その声と手遊びの仕草のタイミングが合うことで、子どもの中のあんころもちのイメージをほどよく膨らませる。マザリーズ手遊び演技者の真骨頂である。②みんなと一緒に演じた後の感想では、各自が友達といっしょに唱える「ホッ」、「ホッホッ」、「ホー」というマザリーズを取り上げている。そして、さらに大きくなったあんころもちを食べるというか吸う、「チュルチュル」と言う言葉に集中している。乳幼児が集中する特徴をもつマザリーズだが、マザリーズに保育者の卵である学生がこれほど集中し、興味を示してくれたことは当たり前だが驚きであり喜びだった。

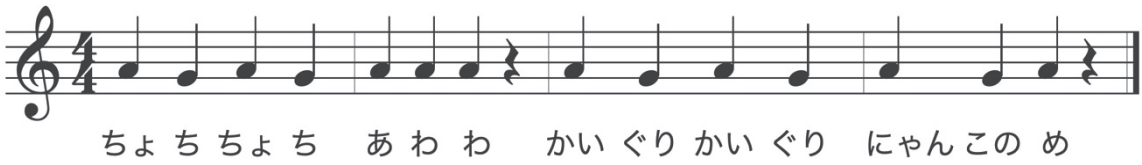
③保育者の立場で模擬指導した感想では、当日の欠席者2名を除いた5名の感想を読むと、自分で演じるときに既に示しているように「ホッ」、「ホッホッ」、「ホー」をキーワードとして強調することが大切にして演じ、さらにマザリーズには含まれないが、手遊びの振り付けとして、その部分に気を付けて各学生が演じていることが分かる。すべての学生がマザリーズ手遊びについて、深く理解している。

３．マザリーズ手遊びの音楽の分析

本研究では、教員が学生に指導しマザリーズ手遊びに取り組んだ際の≪ちょちちょちあわわ≫と≪3匹のクラゲ≫、≪さよならあんころもち≫の楽曲について分析を行う。歌詞や手遊びの動きについては、第１章に記載してある通りである。

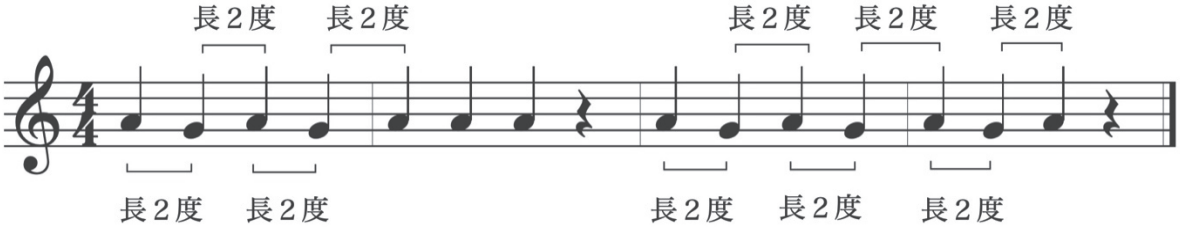
(1) ≪ちょちちょちあわわ≫についての分析

本研究での≪ちょちちょちあわわ≫は、譜例１のようである。



譜例１　≪ちょちちょちあわわ≫の楽曲

譜例１の≪ちょちちょちあわわ≫の楽曲は、譜例２のような音程の動きになっている。１点イと１点トの２音で、楽曲が構成されている。２音で構成されていることは、わらべうたの特徴の一つである。



譜例２　≪ちょちちょちあわわ≫の楽曲の分析

楽曲全体の音程を分析すると、長２度の音程の動きを上下で繰り返していることが多い。同音で繰り返しているのは、２小節目である。２小節目の音程は、完全１度の繰り返しになっている。

また、言葉（歌詞）と音程の動きが一致していて、歌いやすいと思われる。

第２章の教員と学生の取り組みから、「にゃんこのめ」の箇所で「目」を指差すために、手は指を差す目に向かって「にゃんこの」で準備をすることがわかる。そのため、この箇所では、多少のテンポの揺れと「め」と歌う時に音程の高さの変化があるように思われる。これらは、マザリーズの特徴でもある、速度がゆっくりになり、やや高めのピッチになることにも当てはまるであろう。

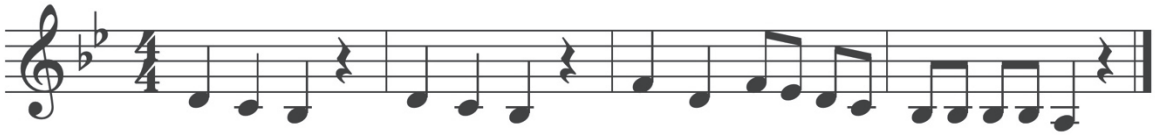
(2) ≪3匹のクラゲ≫についての分析

本研究での≪3匹のクラゲ≫は、譜例３のようである。調性と音は、横井ら(2006)の資料を参考にした。1小節目から4小節目までの歌詞は、「Three jelly-fish. Three jelly-fish. Three jelly-fish sitting on the rock」である。譜例３は４小節目までであるが、本研究では、この４小節の後に、「One fell down」「Tlu Tlu Tlu Tlu Tlu Tlu Tlu Tlu」があり、手遊びが完成している。

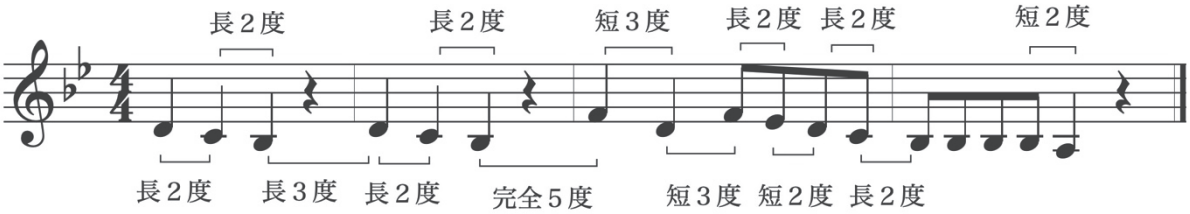
４小節目の後の「One fell down」は、四分音符３つと四分休符１つのリズムで表現している。♩（One）♩（fell）♩（down）となっている。四分休符の後、「Tlu Tlu Tlu Tlu Tlu Tlu Tlu Tlu」が続き、クラゲが岩から落ちていくイメージを「Tlu」を繰り返すことで表現している。歌詞と動作が一致して、

イメージがしやすく、抑揚をつけて表現できると思われる。

譜例４は、楽曲全体を音程で分析したものである。歌の中での音程の中心は、長２度と短２度、長３度と短３度、完全１度の組み合わせに合っている。



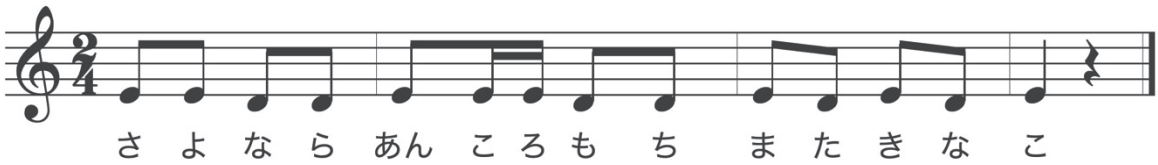
譜例３　≪3 匹のクラゲ≫の楽曲



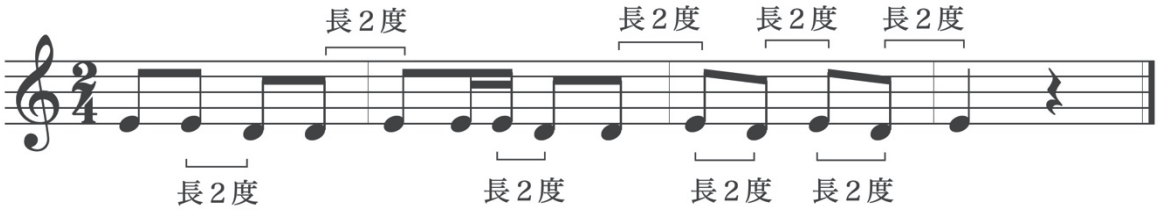
譜例４　≪3 匹のクラゲ≫の楽曲の分析

(3) ≪さよならあんころもち≫についての分析

本研究での≪さよならあんころもち≫は、譜例５のようである。第１章の歌詞の箇所での「さよならあんころもちまたきなこ」の箇所である。１点ホと１点ニの２音で、楽曲が構成されている。２音で構成されていることは、わらべうたの特徴の一つである。



譜例５　≪さよならあんころもち≫の楽曲



譜例６　≪さよならあんころもち≫の楽曲の分析

楽曲全体の音程を分析すると、１小節目と２小節目は同音で完全１度と長２度の音程の動きが混ざっている。３小節目と４小節目は長２度の音程の繰り返しになっている。

４小節目の２拍目に四分休符があるが、この箇所が、第１章の歌詞にある「ホッ」という箇所になる。

また、１番から３番にいくにつれて、あんころもちが小から中、大と変化していくことで、手遊びの動きも大きくなっていく。このことにより、速度も多少ゆっくりになり、抑揚がついて表現しているであろう。

（4）まとめ

本研究で取り組んだマザリーズ手遊びは、３曲とも歌詞や手遊びからイメージしやすく、子どもも楽しく取り組めるように思う。本研究では、歌のメロディーを中心に楽曲分析を行ったが、楽曲の最後の部分の音や休符の箇所にある言葉と手遊びの動きに、楽しさが多くあるように感じた。マザリーズ手遊びとして、楽曲の最後の部分で、テンポがゆっくりになったり、動きを強調したり、声で抑揚をつけていくと、子どもと楽しく手遊びが行えると考える。今後も、他の楽曲でも分析を行い、特徴を明らかにしていきたいと考えている。

4. 考察

マザリーズを子どもの気を引く歌遊び、手遊びとして考えたときに、横井の頭にまず浮かんだのは、「ちょちちょちあわわ」であった。かこさとし（1975）に、顔遊び、指遊びの項目があり、何気ない子どもの遊びを取り上げ、その楽しさ、面白さを伝える。自分の仕事帰りに路地で母親や祖母が何気なく子どもにしている遊びを書き留めているが、現在ではそういう場は少なく、子育て支援センターで母親と一緒に演じたり、保育所で保育士と一緒に演じたりすることで子どもに伝わると考えられる。

「さよならあんころもち」は、インターネットでマザリーズとことばで検索をしたところ、東京都町田市の子育て支援センターの活動が出て来て、そこから学んだものである。かつては、町中の路地で多くの子どもが母親や祖母に演じてもらっていたものだろう。現在では、逆に子育て支援センターで温存されたマザリーズを、インターネットの情報を通して保育学生、保育者が学ぶということである。もちろん、水は高きから低きにながれる。子どもがよろこぶマザリーズ、手遊びはどんな方法であろうと、子どもの中、保育者の中で広まっていくと考える。

「3 jelly-fish」、「3 匹のクラゲ」は、横井がかつてオーストラリアの幼稚園へ学生を引率したときに、そこの保育者から教えてもらった手遊びで（横井一之他（2006））、保育者も子どももとても楽しそうに演じていた。横井がこの手遊びを伝えたとき、学生があまりにもすんなりと受け入れたのに横井はある種の感動を覚えた。1 つめの理由は、英語の歌詞だがすんなりと受け入れてくれたからである。2 つめの理由は、岩の上からクラゲが転げ落ちるときの擬声語である “Tlu Tlu Tlu Tlu” を学生が一生懸命練習してくれた。巻き舌がどうこうと必死に、何の疑いももたず練習してくれたからである。そして 3 つめの理由として、クラゲが 3 つとも落ちていなくなり、歌詞が “No jelly-fish” となり、それをすんなりと、ある学生はかわいいとうけとめていることである。英語の手遊びも、日本の幼児教育施設で普通に取り上げていれば、それを耳にして演じていた子どもが、小学校 3 年生の外国語活動で英語という言葉にあらためて出会った時に、「そういえば fish は複数形なの？」、「jelly、ゼリーみたいな魚介類だからクラゲなのね」と、すんなりと理解すれば幸いである。

以上のことから、保育科学生が取り上げる題材としてマザリーズはともて良いことが理解できた。

第 2 章で学生がマザリーズに取り組んだ様子や感想を記述した。初めに横井の演示を見た感想、2 番目に学生同士で演じた感想、3 番目に保育者として模擬保育的に演じた感想を述べている。すべての学生が、3 段階の演技で、それぞれのマザリーズを自分のものとして主体的に演じている。

第 3 章では、本研究で取り上げた 3 種類のマザリーズについて楽曲の分析を行った。3 種類の楽曲は、最後の部分の音や休符の箇所にある言葉と手遊びの動きに、楽しさが多くあるように感じられ、子どもと楽しく手遊びが行えることが理解できた。[1)]

3 つのマザリーズについて、3 段階で演じて、それぞれ学生が書いた感想をフィードバックした。それにより、よりマザリーズについての理解が深まったようだ。そして、この研究の 3 つの目的は達成できたものと考えている。

＜註＞

1）第 1 章では研究の目的を横井が、第 2 章ではマザリーズを実演した学生の感想を横井が記述した。第 3 章は、学生が実際に模擬保育として演じたもの、そして学生の感想を読んで、取り上げた 3 曲のマザリーズを楽曲として分析を夏目が行った。第 4 章の考察は両名がまとめた。

＜参考文献＞

(1) 町田市地域子育て相談センター･Net で子育てちょこっとひろば「赤ちゃんと話そう『マザリーズ』」youtube 2023.2.10. 接続
(2) 児玉珠美 (2015)「0 歳児におけるマザリーズの効果に関する一考察」『名古屋女子大学紀要』61（人･社）P.261-270.
(3) 横井一之･本山ひふみ･堀　建治･高森亜季子･奥田由香里（2006）「5 つのオーストラリアの手遊び」『鈴鹿短期大学紀要』第 26 巻 P26-33.
(4) かこさとし（1975）「顔遊び，指遊び」『子どもと遊び』大月書店 P9-19.
(5) 横井一之 2022「専門演習における絵本の読み方の練習についての一考察：0，1 歳児への間を大切にした読み方に焦点をあてて」『ユマニテク短期大学紀要』第 5 巻
(6) 横井一之 2023「専門演習における地域施設の活用について」『ユマニテク短期大学紀要』第 6 巻